

- 「男性学」って知っていますか？
- 「男はつらいらしい」を読んで
- 女性の社会進出
- 女性監督の映画が面白い
- 避難所運営ゲームを通じて考える男女共同参画視点での地域防災・減災

● 編集後記 ● インフォメーション



かがやけ地球



藤沢への誇りや愛着を高め、藤沢の魅力をより効果的に市内外へPRするために、キャッチフレーズ「キュんとするまち。藤沢」と、ロゴマーク（愛称キュンマーク）が誕生しました。



藤 沢 市

男性学って知っていますか？

お正月の気分がまだ少し残る1月14日、市職員向けの「人権・男女共同参画啓発セミナー『男性についての男女共同参画 多様な生き方ができるまちづくり』」を聞いてきました。

講師は、武蔵大学 社会学部助教 田中 俊之氏。専門は男性学(男性が男性であるがゆえに抱える「男性問題」をあつかう学問)だそうです。まだ若い、結婚されたばかりというすてきな方でした。

女性学という視点は1970年代からあり、女性であるがゆえに抱える多くの問題を考えてきたのだそうです。日本は男性中心の社会であり、子どものころから、男性は技術、女性は家庭科、と別れた教育がされてきました。

男性は、強くたくましく、働いて家族を養う、女性は家庭で子育て、家事、と疑問をもつこともなく当たり前のようだった時代が長く続きました。技術家庭が、男女の差をなくし全員と一緒に勉強するようになった世代が、今30代を迎えたのだそうです。

声高に、女性の地位を上げましょう、と叫ばずとも、男女という感覚ではない自然なそれぞれの個性で、働き方も、生き方も変わっていく時代がやっと見え始めてき

たのかも知れません。

しかしながら、さて、男性は現在の状況に果たして満足しているのでしょうか？

いいえ、そうでは決してないのです。女性がアピールすべきとされるさまざまな問題は、解決とはいかないまでも30年あまりの歳月の中で、見直そう、考えようという意識の呼び起しは出来ていそうです。しかし、「男性問題」は、当の男性自身でさえときに気づかないというより難しい局面にあるのだそうです。

「男性問題」には働きすぎ、自殺、過労死、過労自殺、平日昼間問題、地域や家庭での居場所などがあるとのこと。特に気になったのは、「地域や家庭での居場所」について。女性だけでなく、男性も今は寿命がどんどのびています。定年退職は60歳。寿命は80歳。会社を辞めてからの20年の人生をどう生きるか。

男性たちは、定年後、肩書を元〇〇、と書くことが多いのだそうです。退職後も心は会社から離れられず、自分自身の居場所をつくるのが下手なようです。会議で相手に物事を的確に伝える術は持っているかもしれませんが、しかし、楽しい何気ない会話を楽しむ術は持っていない方が多いようです。





一方で女性は仲間作りが得意な方が多いようです。男性には考えつかないような楽しいサークルをつくりだす。

何かに誘いたいと思う夫は、相手は妻しかいません。

しかし妻は……すでに多くの仲間をつくって活動しています。

ひとりひとりの労働時間を社会全体で減らしましょう。そして、仲間づくりの下手な方が多い男性たちも老後の仲間となるべき友を、若いうちからいろいろな形でつくり始めましょう。仕事の場に活躍を求める女性たちを大いに受け入れれば、男女双方にゆとりの時間もできるでしょう。

そして、会社人間でなく、自分自身のゆとりある老後が考えられるような社会にしたいですねえ。

男性学はまだまだ生まれたばかりのようです。当日、課長、係長たち、多くの男性聴講者たちを、数少ない私たち女性は、にこにこ見つめていました。

(甘粕 記)

「男はつらいらしい」を読んで

つらいのは女性や若者だけじゃない。働き盛りの男たちも、グチを言えぬまま、仕事に家庭に恋愛に、心身の不調に悩んでいる。この本は、中年男性の心と体、夫婦・親子関係、働き方などをテーマに取材を続けているジャーナリストの奥田祥子氏が、非婚や男性更年期などの男性の苦悩と本音をまとめたルポである。

実はオットも40代の前半に不調な時があった。きつとあれば男性更年期だったに違いない。生活の全てが仕事中心。まともに休めるのはせいぜい月に2日くらい。それでもグチや弱音を吐いたことがない。仕事上のつきあいは多いが、間違いなく聞き役だと思う。この本に出てくる「相談する男たち」のように、悩みを打ち明けたり、グチや本音を言えたりしたら、どんなにかラクだろうに…。もちろん自分自身や働き方を変えない限り、根本は変わらない。変われないオットの体や、定年退職後のことを私は本気で心配していた。

そんな思いでいた年明け、幼稚園の頃から家族ぐるみでつきあっている親仲間たちとの飲み会が久しぶりにあった。サラリーマン時代は一緒にキャンプに行ってもほとんど会話することのなかったあるお父さんが、別人のように明るく社交的になっていた。聞けば、定年後

に福祉関係の送迎のボランティアをやりながら、地域の公共施設でのスポーツサークルにも入っているらしい。「今、人生最大のモテ期」と楽しそうに笑う彼は、ボランティアでは喜ばれ、ずっと年上のおばあちゃんたちからはスポーツに健康麻雀にとひっぱりだこなのだそうだ。人はいつからでも変わることができるのだと希望が持てた。

本書には男性問題の解決策は書かれていない。普通の男性が地道にコツコツ働きながら、男として内に秘めた悩みを抱え、必死に葛藤している姿をありのままに描き出しているのみだ。奥田氏には、これからも中年男性に寄り添い、取材し続けてもらいたい。そして彼のような小さな成功例でかまわない。男のつらさを克服した実例をたくさん世に出してもらいたいと思った。

(有田 記)



『男はつらいらしい』奥田祥子
新潮新書刊

女性の社会進出

経団連は、2月9日、はじめて、女性役員を起用すると発表した。女性の社会進出の一つの出来事である。

新しく審議委員会(会長の諮問機関)の副会長に内定したのは、外資系通信会社「BTジャパン」社長の吉田晴乃氏である。

経団連では、榊原会長が「いつか女性の会長・副会長が誕生する時代が来るかも知れない。今回の首脳人事は、その一歩」としている。

吉田氏は、NTTグループなど通信業界で働いた後、3年前にBTジャパンの社長に就任している。

財界のトップが女性になるという時代が来るかもしれないという期待を持たせるものである。現在は、財界首脳といえば、男の世界であり、女性は少ない。これを改めるということである。女性の社会進出の流れの中で出てきたことでもある。財界の首脳に女性が多くなるためには、基盤となる企業での女性の進出が重要である。まず、企業の中で、責任ある地位を占める女性が増えないことには、なかなか進まないだろう。

(大山 記)



女性監督の映画が面白い

女性監督が女性を描いた映画『繕い裁つ人』を観た。舞台になる洋裁店は、神戸の急な坂を登りきった丘の上にひっそりとたたずんでいる。祖母の代に始めた洋裁店、主人公はお店を引き継いだ孫娘。実際に存在する人物を追うドキュメンタリーと間違えるような説得力を持つ作品だ。足踏みミシンを器用に使いこなすその女性は、「一生モノの洋服を作る」という祖母の意思を頑なに守っている。

「一生モノの洋服」を通して、その町に住む人々が描き出される。時間は静かに流れ、平穏な日常が静かに繰り返されているように見える。全く変化がないように見えて、実は少しずつ変化していく。

その「一生モノ」は、手間を惜しまない丁寧な仕立てのよい洋服。人生を重ねて、体が丸く、背が縮んでも体に合わせて直してくれる。着込むほどに布が柔らかく体になじんでくる。私達は、「一生モノ」といわれるものをいくつ持ち合わせているだろうか。監督は洋服になぞらえて、人生そのものを描いているように思える。観ているうちに自分の人生とも照らし合わせていることに気が付く。

安物を気軽に買って、使い捨てる時代に自分の店は合っていないと店をたたもうとしている背広の仕立屋のおじいさんに、主人公の女性が、まっすぐな眼差し

で、お店を続けるように説得するシーンが心に残った。

まだ若かった頃、社会に流されて男性に伍して仕事を男のようにすることをよしと思っていた。子供が生まれた時、仕事と育児を両立するためにがむしゃらに頑張った。それらがひと段落した今の自分にとっては、男女平等についての考え方も少し違ってきている。知らぬ間に自分も変化していた。もっとシンプルで簡単なことなのだと考えられるようになった。

しっかりとした視点で、人や時代に流されない意見を持って自立していることが、男女平等を考える際にも大切なのだと思う。

(川辺 記)

参考資料

『繕い裁つ人』
三島有紀子監督作品
脚本：林民夫
原作：池辺葵(コミックス)
衣装デザイン：伊藤佐智子
美術：黒瀧きみえ
装飾：野村哲也
配給GAGA

©2015 池辺葵／講談社・『繕い裁つ人』製作委員会



男女共同参画視点での地域防災・減災

2月2日、第2回ふじさわ男女共同参画ネットワーク協力員会議の研修として行われた「避難所運営ゲームを通じて考える男女共同参画視点での地域防災・減災」取材しました。

ファシリテーター(※注)脇本靖子氏(川崎市男女共同参画センター事務局長)による、実際の避難所がどのような状況であったかについて、これまでに整備されてきた防災対策、男女共同参画の視点から考える防災・減災についての話に続き、いよいよゲーム体験。

HUG(ハグ)・・・避難所運営ゲームとは

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

細かい設定の書かれた125枚のカードを司会担当が読み上げ全員(今回は6人1組)で配置していきます。カードには、届けられた救援物資の扱いや急なマスコミ対応など突発事項もたくさんあります。

カードを読み上げるうちにグループごと開始時に決めておいたおおまかなルールや配置図では想定外のケースが増え、再度話し合う場面も。意見が活発に交わされ、どのグループも徐々に熱気を帯びてきます。冒頭、脇本氏はHUGを行う際の留意点として「他の人の意見を否定せず受け入れましょう」と話しました。いろいろな意見を聞くのも目的の一つ。なるほど、臨場



感溢れるゲームの中では相反する考えがぶつかることもあり、より積極的なコミュニケーションがみられました。トイレ休憩

の時間となっても席を立つ人は一人もおらず、最後まで真剣な取り組みが続きました。

ゲーム終了後のまとめで、避難所運営についての

様々な困難や問題点が挙がりましたが、避難所のあり方と男女共同参画社会のあり方はとても似ていると脇本氏は言います。



- 一人の人がすべての立場を想像することは難しいという認識を持つこと
- 困難の感じ方や必要な支援に違いがあるということを前提に役割や配置を考えていくこと

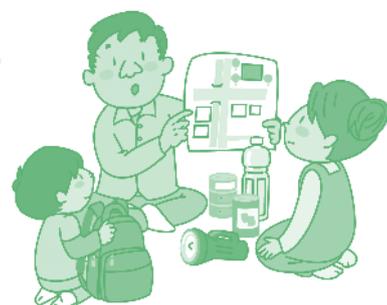
日常でできないことは非日常ではさらに難しい。課題を分かち合い責任を担い合うために共に知り学び合う機会を増やそうという話に皆さん強くうなずいていました。

HUGはhinanzyo・unei・gameの頭文字からなる名称です。英語でHUGは「抱きしめる」。避難者をやさしく受け入れる避難所のイメージだとのことです。

この研修全体を通して驚いたことは皆さんの参加意識の高さ。体験型ゲームということもありいっそうヒートアップしたのかもしれませんが、問題に切り込む姿勢や話し合いを深めていく様子には目を見張るものがありました。地域活動の一つとして男女共同参画の推進に尽力するふじさわ男女共同参画ネットワーク協力員の力を垣間見、身近な支えの力強さを頼もしく感じました。

(鈴木 記)

※注: 集団において中立の立場を保ちながら合意形成や相互理解を促す役割の担い手



インフォメーション

共に生きるフォーラムふじさわ2015 実行委員の募集

男女共同参画について認識を深める
イベントの企画・運営に参加しませんか。

対象 実行委員会（平日に複数回開催予定）
に出席できる方

実施日 2015年11月の土曜日（予定）

お申し込み
お問い合わせ

4月17日（金）までに、電話
またはEメールに住所・氏
名（フリガナ）・性別・年齢・
連絡先を書いて人権男女
共同参画課へ。



電話 0466-25-1111 内線 2131

Eメール jinkendanjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp

「かがやけ地球」 編集員を募集します！

活動内容

企画・取材・資料収集・記事作成など。

対象・人員

市内在住・在勤又は在学の2015年4月1日現在
18歳以上の方、若干名（選考）。

謝礼

1回発行ごとに7,000円（年4回発行予定）。

お申し込み・お問い合わせ

任意の用紙に男女共同参画社会実現への「教育」
「労働」「社会参加」「福祉」「健康」等の関心事に
ついての考え方と応募理由（800字以内）・住所・
氏名（フリガナ）・生年月日・性別・職業・連絡先・
編集経験の有無を書いて人権男女共同参画課へ
郵送または持参で。

編集後記

雪が、ひらひら舞っていました。でも、きっと春はすぐそこに。末っ子がお嫁にいきます。（甘粕）
立春は過ぎたといっても寒い日が続いています。庭の隅には踏の臺が。季節は春に向かっていくようです。（大山）
ヨガ、始めました。ここで宣言すれば、8ヶ月で辞めたスポーツクラブの二の舞にならないかな〜と。（有田）
子どもがこの春一人暮らしを始める。
よい季節、自分の趣味を見つけに、まずは、街歩きを再開してみよう。（川辺）
頭上をかすめた鳶が前を行く人のパンの袋に激突！しっかり一つくわえていった。
鳶の襲撃には慣れっこの我々もひっくり返り啞然呆然…（鈴木）

女性スタッフを中心に
細心・斬新・良質なクリエイティブワークを。



広告デザイン・ウェブデザイン
有限会社 **アート稲元**

〒251-0002 神奈川県藤沢市大観 1-9-3
tel.0466-25-4019
http://www.art-inamoto.co.jp/

グラフィックデザイン
Graphic design
イラストレーション
Illustration
ウェブデザイン
Web design
ロゴデザイン
Logo design
ノベルティグッズ
Novelty goods
印刷
Printing

かがやけ地球は、市民の編集員さんの
企画・運営によって、年4回発行しています。

編集スタッフ 川辺 裕子・大山 賢一・甘粕 保子・
有田 留美子・鈴木 悠子

ご意見・ご感想・今後扱って欲しいテーマなどをお待ちしております！

FAX 0466-24-5928

E-mail jinkendanjyo@city.fujisawa.kanagawa.jp

古書・アウトレット本 買取と販売



買取 ご不要なもの、お売りください。※一部、買取れない品もあります。
買取品目 書籍・CD・DVD・ゲームソフトなど
お売りいただく際は身分証明書のご提示をお願いいたします。



アウトレット本と古書の販売 詳しくは下記
ホームページで
発売後、読者の手に渡らず出版社に在庫されていた未読の本（アウトレット本）を
旧定価の20〜80%OFFで販売します。他に珍品や稀少本など古書も扱っています。

藤沢駅（南口）前・有隣堂藤沢店5階

リブックス藤沢店 [ReBOOKS]



☎0466 26 1411（有隣堂藤沢店代表番号）●ホームページ http://www.yurindo.co.jp/

“藤沢で愛されて、もうすぐ50年”

フジサワ名店ビル

営業時間:10時~21時 ☎0120-111-391 〒251-0055 藤沢市南藤沢2番1-1号
www.fujisawa-meiten.com